

## 全国学力・学習状況調査の結果と今後の取組について

4月に行われた全国学力・学習状況調査の結果につきまして、早渕中学校としての課題と今後の改善案についてまとめましたのでお知らせいたします。

### 本校の調査結果の概要と改善案

#### 1. 平均正答率

|     | 早 渕 中 | 神奈川県 | 全 国   |
|-----|-------|------|-------|
| 国 語 | 71%   | 69%  | 69.0% |
| 数 学 | 55%   | 53%  | 51.4% |
| 理 科 | 51%   | 50%  | 49.3% |

#### 2. 各教科の調査結果の分析

##### <国語について>

##### ◆優れている点として

多くの観点、問題形式において、県や全国の平均を上回る結果となりました。記述式の問題においても平均を5ポイント上回ることができているため、今後も継続させていきます。また、「国語の勉強は好きですか」の質問に「当てはまらない」と答えた生徒が県や全国の平均の半分、「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問に「当てはまらない」と答えた生徒が県や全国の平均の1/3なので、さらに減らしていけるよう指導を改善したいと思います。

##### ◆改善を要する点として

各設問を詳しく分析すると、言語文化に関する事項（行書の特徴）の部分では市の平均を下回っています。また、「国語の勉強は好きですか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の合計は60パーセント程なのに対し、「当てはまる」と答えた生徒は2割程度であることから、好きで楽しいと思えるよう指導を改善したいと思います。

##### ◆具体的な改善案

言語文化に関する事項については、書写をはじめとする活動や、古典の学習の際などに日本語の言語文化により触れていけるような機会を増やし、理解を深めさせます。  
コロナ禍などもあり、話し合いなど他者の意見に触れる機会をあまり多くとれず、教師の講話がメインとなっている現状があるため、ICT機器などを活用しながら、座学だけでなく主体的に活動できる機会を増やし、国語に対する苦手意識を減らしていきたいと思います。

##### <数学について>

##### ◆優れている点として

本校の平均正答率は全国・神奈川の平均正答率を上回っています。これはどの区分を見てもいえることであり、学習内容の定着ができていることを示しています。また、全問正解者の割合は少ないものの、9～10問正解の回答者が多く、正答数分布グラフが右側（全問正解側）に寄っています。このことから数学を苦手としている層も得点できていると推察できます。このことは正答数集計値の第1四分位数が全国の4問に比べて本校は6問というデータも証左になっています。生徒質問紙でも数学に対して好意的な捉え方をしている生徒数が全国・神奈川のデータと比べても多いことがわかります。

##### ◆改善を要する点として

「ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する」という問題の正答率が芳しくないことがわかります。これは「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる」という趣旨からわかる通り、問題の情報を整理し新たな情報を得る方に不足があるように思われます。

##### ◆具体的な改善案

説明や証明の問題に苦手を感じていることが推察できるので、穴埋めプリントなどを用いて情報の整理の仕方を身に付けさせ、新たな情報を見つける土台を作っていくことが肝要です。また、日頃から生徒の考え方を発信させ、他者の情報整理の方法を学ぶことも実践していきます。

## <理科について>

### ◆優れている点として

観察や実験において、見通しをもって取り組んだり意欲的に考察したり妥当性を振り返ったりすることができる生徒が多く見受けられました。そのため、知識・技能の観点で全国平均を4ポイントほど上回る結果となりました。観察や実験に積極的に取り組む本校の生徒像が結果に反映されたものと考えられます。

### ◆改善を要する点として

理科の授業がよくわからないと答えた生徒が多くいたことから、普段の生活で理科が活用できなかったり、社会に出たときに役立ったり理科に関する職業につきたいと思う生徒の数は、全国平均よりも下回りました。

### ◆具体的な改善案

授業の中で身近なことに理科がどう関与しているのかを考えたり話し合ったりする活動を取り入れることや、生徒が自ら進んで学習単元が身の回りにつながっているかを考えるような課題を通して、理科に興味をもって前向きに学習できるように促していきます。

## 3. 質問紙調査結果（本校の特徴や傾向）

生徒質問紙調査の結果から読み取れる早淵中の三年生の生徒の傾向についてまとめました。全国や神奈川県と比較して特徴的なものを中心に抜粋してあります。

- ・携帯、スマホ、コンピューターの使い方における家庭での約束を、概ね守っている生徒の割合は、県や全国に比べると若干高くなっている。
- ・一日あたりにやっているゲーム（スマホ、コンピューター等）の時間は、県や全国と比べるとやや短いですが、ゲームをまったくしない生徒は11%程度で、県や全国よりも若干少ない。
- ・自分にはよいところがあるかという自己肯定感については、県や全国に比べるとやや低い。
- ・学校に行くのは楽しいと思っている生徒の割合は、県や全国よりも高い。
- ・平日の一日あたりの学習時間（塾や家庭教師含む）は、県や全国と比べるとかなり多い。（一日2時間以上は、早淵（53.3%）、神奈川県（45.8%）、全国（35.2%））
- ・一日あたりの読書時間は県や全国よりもやや少ない。（まったく読書をしていない生徒は、早淵（59.9%）、神奈川県（45.3%）、全国（39.0%））
- ・読書が好きだという生徒の割合は、県や全国と比べると少ない。（「好き」と「やや好き」を含めて、早淵（51.2%）、神奈川県（64.1%）、全国（68.2%））
- ・新聞を毎日読む生徒は早淵にはいない（0%）。（神奈川県は2.2%、全国は3.0%）
- ・コンピューターを使用した授業を行っている生徒の割合は高いが、利用の仕方として、他の生徒との意見交換や、調査活動のツールとして使用している生徒は少ない。
- ・総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる生徒の割合は県や全国よりやや少ない。

### まとめ

今年度は、国語、数学の2教科に加え、3年ごとに行われる理科の調査年に当たりました。また、生徒質問紙調査も例年通り行われました。

教科の調査における本校の結果は前ページの表の通りです。県や全国の平均正答率と比べると、どの教科も若干上回っています。傾向としては例年と同じで、どの教科も基礎・基本的な学力はおおむね身につけていると考えられます。ただし、どの教科も設問によってねらいが異なり、観点によっては県、全国の平均を下回る設問や、正答率そのものが低い部分もあります。基礎学力を充実させた上で、さらに応用力、思考力を向上させるために、今回の結果を分析し、今後伸ばしていくべきところを把握し、これからの授業改善に役立てたいと思っております。

「調査結果の概要と改善案」のところには、教科ごとに正答率の傾向を分析し、改善を要する部分を記述しました。各教科で検討した改善案については、できるだけ早く具体的な取組として授業や生徒の学習活動の中に取り入れ、実践していきたいと考えております。また、質問紙調査の結果についても、本校生徒の特質を的確に把握して、効率よく学習活動が行われるように活用していきたいと思っております。何かご不明な点がございましたら、学校までご連絡ください。